

東福寺

笹下5丁目

創建

西暦972年(天禄3年)、護妙法印という僧が比叡山から薬師如来の尊像を背負い当地まできて天台宗の妙法山一乗寺という寺を建立。

開基

年月を経て、蜜巖の弟子某の代に親鸞が東国布教にやってきた際、真宗に帰依、親鸞の弟子となり名を「海弁」と改め寺も浄土真宗に改宗この海弁を当寺の開基とした。(1266 文永3年 没)

宗派
本尊

浄土真宗本願寺派 港南区唯一の(西)本願寺派寺院
阿弥陀如来

いわれ

- 東福寺は、開基以後現在の27代住職まで800年の血脈(相続)がわかりこれは大変珍しいこと (歴代住職の法名碑を設置)
- 杉本山の由来は、東福寺中興の北見掃部(かもん)の居住地杉本を山号にし、院号は親鸞聖人が東国布教の時、当寺に3ヶ月逗留したことによる。
- 「絹本着色光明本尊図」(重要文化財)、蓮如上人の六字名号掛け軸、親鸞聖人お木像、薬師如来像、聖徳太子お木造があり、境内の片隅には区内で最も古い庚申塔がある。
- 山門の右手に花塚がある
横浜の「花どころ」といわれた港南の地に、花の精に感謝して生花商組合の面々がこの塚を建てたもの。(現在は碑石のみ)
- 樹齢800年以上のスタシイの木(横浜市古木銘木指定)



山門



本堂と鐘楼



親鸞聖人像



幼少時の聖徳太子像



3猿の庚申塔



寺子屋記念碑



花塚